第４回　清瀬市公共施設を活用した子どもの居場所検討委員会会議録

１　開催日時

　　令和６年１１月１３日（水）１４時３０分から１６時まで

２　場所

　　清瀬市役所３階　会見室

３　会議内容

（１）開会

（２）資料確認

　　　事務局が資料確認を行った。

（３）前回会議の会議録確定

　　ア　４ページの下の方で、子どもの声を聞いたからには返していかなければならないという発言があったように思う。

　　イ　４ページのどんな大人がいるといいとの箇所。いつもびしっとでは困ると思うだけだと言葉が足りない。困ると思うというよりは、トラブルがおきた時に、子どもの声を聞けるような、そのような大人が必要なのではないか、というような趣旨のことを話した気がする。そこを付け加えてほしい。

（４）意見交換

　　　意見は以下のとおり

　　　・中高生の遊具は何があるのだろうと疑問に思った

　　　・どこの公共施設を活用していくのか、という前提となる計画がないとイメージがもちにくいのではないか

　　　・限られた場所をより有効に、というような形で考えていかないといけないのではないか

　　　・公共施設の利用については、現状でも予約がとりづらいなどの声がある。そこをさらに子どもの居場所のために使うとなると他の年齢層からは理解を得られないのではないか。市の事業で公共施設の貸室等を確保するということも理解されていない状況である。

　　　・この提言を受けて、市がいろいろとできることを模索するということだと考えており、委員会としてはもう少しいろんな、やっていただきたいことを提言してもよいのではないかと、感じ取った

　　　・夢を語りたいが、現状において子どもの居場所が無いのだから、現実的に早く作ってほしい。子どもたちからも具体的な話を聞いているのだから１つでも２つでも図書館の跡地だけでも子ども達が望んでいる物に活用できるようになった方がいいのではと思う。

　　　・提言したり語るのは簡単だが、実現しないとがっかりすると思う。

　　　・これからの基本的な方針があったうえで、希望も含めて具体的な部分を書いていくということでもよいのではないか

・他の世代のことも併せて検討していく必要がある

・これをきっかけとして他の世代の違う人にも入ってもらって話せると良いと思う。それぞれの立場がある。それを超えないと今の子ども達は守れないと思う。

・一緒に子どもの応援団になっていただくのもよいのかもしれない。

・年齢で分けた方がいいということが前提ではない。みんながいやすい場所にするための配慮をする人がいるといい。

　　　・資料を見ると自習室ができるのかなと感じた。自習室が子どもの居場所として今一番本当に必要なのか。中学生に聞いたから勉強は切実なのだと思う。自習室ができるだけだともったいない。やることの無い子たち　野塩の子ども食堂の子は遊びたいという気持ちが回答に出ている。居場所を必要としている子どもたちはこの部分を求めているように感じた。年齢によってもニーズが異なりどのように分けていくかが難しい。

　　　・子どもの意見を聞くと、これだけ少ない意見の中にもバスケということがある。身体を動かすスペースが足りないのだと思う。公園がつぶされてしまっている。中里グラウンドも家になってしまう。そのような中で市が居場所を本当に作ってくれるのか、ということも気になる。図書館や学校のプールという言葉も出ている。今、市が無くそうとしているものも意外と子ども達は居場所として捉えているのでは。無くしたものをもう一度つくるのは難しい。

・ニーズをどうとらえるのかが大事なのではないかと思う。

　　　・中学生に聞いたから自習室という意見が出たのでは。バスケットが目立っているが、小学生だときっちりとしたスポーツでなくても体を動かすということが必要だと思う。子どもの居場所に接したことに広い空間があるといいということを提言できたらいい。小学生が走り回れるくらいの大きさの空間があれば。居場所にいて、少し体を動かせるということがあれば子どものニーズも満たせるのでは。

・提言書の中で、学習スペースに附属して、身体を動かすことのできる広い広場、簡単な遊具があるとよいと。遊び場については、中央児童館のような遊び場という言葉に包摂されているが、そこを具体的にもっと書いてほしい。おもちゃなどが置かれるというようなことを。

・はっきりここのスペースをこう使えるからどうする、というのがないと。夢を語るのはいいが、やはり現実的につくるということを前提に考えていきたい。居場所というのは、学習スペースではない。国、東京都が考えているのは居場所のない子の居場所とか、学校じゃない、家でもない、その子が安心して過ごせる場所を求めているのだと思う。確かに家で勉強をするスペースが無い子もいる。今何が子ども達に足りなくて、なんで子どもの居場所をつくるのか、という原点を大事にしないといけない。

　　　・見守る人が大事。場所を作っただけでは、安心してすぐにいけるということではない。

　　　・子どもを安全に守れて無料で使えるとか、それを前提にしてほしい。

　　　・子どもの気持ちと大人の話が離れていってしまう。大人の都合で決められてしまう。

　　　・今ある民間の子どもの居場所を援助するという方法もあると思う。民間の子どもの居場所を保っていくのが大変。

・多様なバリエーションで場を模索していくということも入れられるといいのではないか。

　　　・学習スペースができたということで子どもの居場所ができた、ということにするのはやめてほしい。

　　　・つながりを感じたりとか他の子とつながりを感じたいというような　両方のニーズがある。

　　　・場所づくりの理念や方向性が大事なのではないかと思う。

　　　・前提として子どもの居場所についてどのように考えていくのか、ということも考えていくのもよいと思った。子どもの真ん中チャートを作ってみてもよいのではと思いました

・具体的に、この地域にこれがほしいということが出せるといいと思った。例えば乳児期ではつどいの広場がここにはある、などを整理し、この年齢ではここが足りないなど。小学校にあがるときにはここが足りない。　ワークスペースはここが足りないなど。

　　　・地域ごとにこれがあるこれがない、というような表があるといいのでは。

　　　・クローズドのところがある　そこを紹介してもしょうがない

　　　・地域の人と連携して、いつでも子どもが居場所に行けるようになるといい。

　　　・空いているスペースを有効活用して、子どもの居場所を作っていけるといい。

　　　・子どもの意見をまとめた資料を提言に添付することも良いのでは。

　　　・ニーズをどうくみ取っていくのか、子どもの声をどう変換していくのかということも委員会の役割なのでは

・提言書案については、各地域についての枠だけつくってほしい

・項目欄も入れないところを

・子どもがくつろげるように、畳のような子どもが転がれるような場所があるとよいのではないか。

・人の問題は大事。子どもと共通理解がもてるような工夫というのは必要なのではないかと

（５）その他

　　　次回日程等について事務局より報告をして閉会となった。